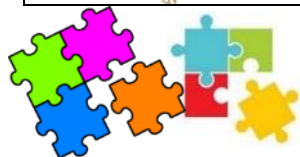


	学校だより 第 8 号	啐（そつ）とは、鳥が卵からかえるとき、殻の中で雛が鳴くこと。啄（たく）とは、親鳥が外から殻をつつくこと。両者相呼応した、逃すべからざる好機をいう。当校では、啐啄の精神から大きな成果が生まれると考え、職員玄関に掲額している。
	令和 4 年 12 月 15 日	
	上越市立城西中学校	



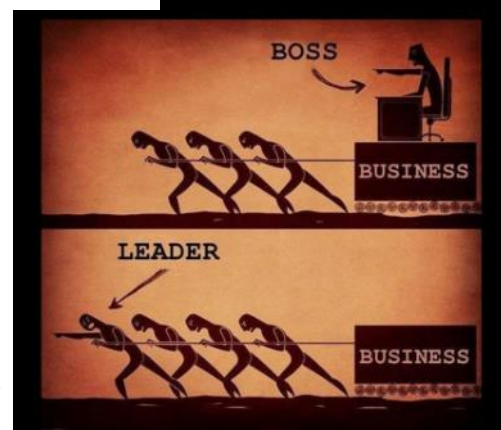
協力のカタチ

主幹教諭 室 稔

先月、生徒会やリーダーについて考える内容で生徒朝会が行われました。執行部の生徒は、『生徒会とは、私たちが自分たちの手でよりよい学校生活をつくりあげていくための集団。執行部の人たちだけがやる活動ではなく、全校生徒のみんなが行うものです。「みんなが仲良くなるため」「みんなが協力しあって、安心して過ごしやすい学校にするため」…（略）…を目的としています。』と全校生徒に語りかけていました。

先の執行部員の言葉にもありますが、私たちは学校生活の様々な場面で「協力」という言葉を使います。学校生活における具体的な「協力」の一部をあげてみます。授業中、静かに話を聞かなければいけない場面では、静かに話を聞くことが「協力」、話合いの場面では、よく考え、自分の意見を発表すること、アイデアを提供することが「協力」です。また、そうじでは、「黙動清掃」が「協力」、係活動や委員会活動では、「自分の役割をきちんと果たすこと」が「協力」になります。「協力」はたった一言の言葉ですが、「協力のカタチ」にはいろいろなカタチがあって、人と人をつなぎ、自分の周囲の人々やモノを大切にしたいという思いやりの言動の現れです。ただ単に「協力する」の上辺だけの言葉ではなく、

生徒会＝私たちが自分たちの手でよりよい学校生活をつくりあげていくための集団



「ボス」と「リーダー」のちがいが

「協力」は実行することでカタチとなっていきます。今、この場面で、自分にできる「協力」は何かを考え、一人一人が「協力をカタチ」にしていけることが、みんなの学校生活のしあわせづくりです。今年度は、生徒会組織の見直しを進める中で、生徒のアイデアにより、「城西向上委員会」が新設されました。家庭でも学校でも活動できる方法や自分の個性や得意、多様性を生かせる様々な内容を考えています。そして、お互いに「ありがとう」の気持ちを伝え合いたいと思っています。



2 年生 学年生徒会の話合いの様子

今年度も、3 年生をはじめとしたリーダーのみなさんを中心に全校生徒で支えあい、これまで充実した生徒会活動を展開してきました。今、学校では、2 年生を中心に、学年ごとに次年度に向けた生徒会のリーダー選出が着々と進んでいます。生徒会はリーダーだけではなく、全校生徒みんなのもの。来年度の生徒会にも、城西中学校のよき伝統を守りながら、仲間とともに、よりよい学校づくりに全力で取り組んでいってくれることを願っています。

人権について考える

11 月 28 日（月）～12 月 12 日（月）を人権教育強調旬間として位置付け、全校体制で行ってきました。人と人とのかけわり「仲間づくり」の根幹となる大切な取組です。「自分の当たり前は隣の人の当たり前ではありません。隣の人の人権を大切にしていきたいことが共生です。」という生徒朝会での執行部のメッセージをスタートとし、上越市人権教育教材「えがお」を使った道徳授業、部落問題学習、学級討議等、様々な活動を行ってきました。生徒一人一人が人権感覚を磨き、差別を許さず、自他を大切に行動できるように、今後も人権教育のより一層の充実と学級づくり、仲間づくりに力を入れて取り組んでいきます。

第2回避難訓練を実施しました



今年度2回目の避難訓練を11月17日（木）に実施しました。今回は初の試みで、いつ実施するか生徒や職員（担当など一部を除く）に事前に知らせない形式で行い、より実際の場面に近い状況で「安全に避難する」「確実に人員を確認する」ことを目的として訓練を行いました。今回は、不審者が立てこもり、生徒の身に危険を及ぼす言動があり、放送機材を使うことができないという想定のもと、職員が各教室を回り、避難指示を口頭で行っていくこととしました。「いつあるか毎日気になる、心配だ」などという生徒の声も聞こえてきました。いつ起こるか分からない中で冷静な判断や落ち着いた行動が求められます。今回の成果は、生徒や職員が緊張感のある中での落ち着いた行動ができたことです。また、今後の課題は、限られた時間の中で情報をより正確に伝達していくことです。



学校説明会 大成功でした

11月24日（木）城西中学校区の小学校から6年生を招いて1年生による「学校説明会」を行いました。実行委員の司会進行で会を運営し、中学校生活の1日の流れや学習、学校行事、部活動などを学級単位で紹介しました。中学校生活の様子を事前に準備した寸劇や制作した動画で紹介したり、部活動や学校行事をパフォーマンスで演出したりしました。6年生の視点で内容を考え、1年生みんなで発表できたことが1年生全体の成長にもつながり、先輩になる自覚を高めることができました。



修学旅行に行ってきました

11 月 22 日（火）、3 年生が北陸方面へ第 2 弾の修学旅行に行ってきました。コロナ禍により延期に延期を重ね、規模も縮小せざるを得ない状況での実施でした。またやむを得ず参加を自粛しなければならない生徒もおりましたが、旅行中も班のメンバーが参加できなかった仲間のことを考えている温かい姿が見られました。参加した生徒は笑顔も多く、待ちに待った修学旅行を楽しんでいました。



お世話になっています（第 1 回）

2 学期も地域や上越教育大学から、ボランティア 6 名、ご自身の研究や実習の一環として 2 名来校いただいております。お仕事や学業の合間を縫って、城西中の教育活動を支えてくださっています。今回はそのうち 3 名の方々を紹介します。



CS(コミュニティスクール)ボランティア ()さん

【保健室・にじいろ教室見守り、フラワーアレンジメント講師 通年】

「私は花が好きです。花は優しく寄りそってくれる存在です。その花を使って、生徒さんとフラワーアレンジメントができてうれしいです。」



上教大大学校支援プロジェクト ()さん

【保健室・にじいろ教室見守り 8 月～11 月】

「生徒が主体的に学校行事に関わり、先生と創り上げている姿がとても素敵です。明るいあいさつをみんなができていてよい学校だと思います。」



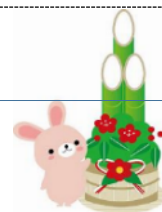
上教大大学校支援プロジェクト ()さん

【にじいろ教室見守り 8 月～12 月】

「昨年から参加させてもらっています。中学生の気持ちを知るとともに、先生方の授業や働く姿を見て学ばせてもらっています。城西中はみんなが認め合える、そんな環境があって素敵だなと思います。」

※学生ボランティア 6 名の方々については、次回以降紹介させていただきます。

1 月の予定



5 日（木）3 年実力テスト（3 年生登校日）

6 日（金）第 5 期開始 3 学期始業式

10 日（火）第 3 回基礎テスト（数・英）

13 日（金）スクールカウンセラー相談日

20 日（金）専門委員会

スクールカウンセラー相談日

23 日（月）3 年定期テスト

24 日（火）3 年三者面談（～26 日）

31 日（火）

学校説明会

2 月 2 日（木）【入学予定 6 年生児童保護者向け】

harass この許すまじきもの

やがて上司に怒りが満ちてゆく様を再放送を見るやうに見つ

田村 ^{はじめ} 元 ～「北二十二条西七丁目」(H24、本阿弥書店)から～

*やがて…古文の用い方で、ここでは「すぐに」の意。 *やうに…歴史的仮名づかい。「ように」と読む。

*見つ…古文で「つ」は、完了の助動詞なので、「見た」の意になる。

「みるみるうちに、目の前の上司の顔に、姿に、怒りが満ちていく。

それを『耐えられないこと』『理不尽なこと』『人として上司として、どうなのか』と感じた、私。

でも、逆らえなかった、逃げられなかった、顔をそらすこともできなかった、私。

ただただ、テレビの再放送を見るように、いつものように、上司が怒っているのを見た、私。」

(五十嵐 意識)

harass は、「悩ませる、嫌がらせをする、繰り返し攻撃する」という意味の動詞で、それを名詞にしたのが「ハラスメント」。なんとなく、こうしてカタカナにすると、その意味が薄れてしまっているのではないか、と思います。

harass の語源は古代フランス語の「harasser＝疲れ果てさせる」や「harer＝犬をけしかける」だと言われていて、語源をたどると、その残酷さが、より実感できる気がします。

——「指導のため」「教育のため」「しつけのため」「勝つため」「みんなのため」——。

時に「正義」—「結果(勝利)至上主義」「全体主義」「画一化志向」なども — は、ハラスメントを正当化するための道具にもなります。そして、それが繰り返されることで、人の心は疲れ果て、弱り、麻痺します。己を否定し、傷つけるところまで行ってしまうこともあります。子どもも、大人も、同じです。

戦争という最大の残虐行為すら、「国を守るためという正義」の名の元、正当化する人がいる時代です。

保育の現場での、幼い子たちへの残虐な行為が、連日のように報じられています。

学校教育においても、そして家庭でも、大人から子どもへのハラスメント — 「虐待」「体罰」など — が深刻な問題となっています。先日改めて、職員だけでなく、ボランティアや部活動の外部コーチなどで生徒に関わってくださっている方も含め全員で、「生徒の人権を守る指導」について確認しました。

私は、その人の前であれ、その人がいない時であれ、誰かの名前を口にする時は必ず「さん」付けで呼んでいます。人を、いわゆる「呼び捨て」にすることは、ほとんどしません。生徒のことも、同様です。それは、一人一人の存在を尊重するためでもあり、常に自らの人権感覚をいましめるためでもあります。かく言う私自身、今までの教職生活の中で、また社会生活の中で、数多くの失敗をしてきた一人です。何度も、反省し、後悔し、お詫びをしながら歩んできました。今も、自責の念にかられて眠れぬ夜があります。

だからこそ、なおさら思うのかもしれませんが。子どもであれ、大人であれ、放っておけば、心に埃(ほこり)はたまってしまうものではないかと。

人権感覚とは。思いやりとは。やさしさとは。「愛する」とは。

それは、いくつになってもみがき続け、埃を払い続け、学び続けながらアップデートしていかなければならないものではないか。そう、自らに言い聞かせています。

harass。すさまじきもの。許すまじきもの。子どもの心や体を傷つけるもの。「共生」を妨げるもの。

小さき者、弱き者への攻撃を、決してしない。決して見逃さない。決して許さない。

不条理な力関係を、決してつくらない。

そのために、職員一同で、心をみがき続けてまいります。

私をはじめ、当校職員の言動に、人権上危険な点や、おろそかになっている点がありましたら、遠慮なくご指摘ください。よろしくお願いいたします。(文責:五十嵐 守男)